



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第284号 2025年11月号

SINCE 2002.4.1.

発行日令和7年10月20日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

♪Now And Then「おっばじメール」その⑧

Oppajimail

平成13年に発行された「追浜ふるさと写真集」（追浜地域文化振興懇話会）の写真を現在、未来（再開発）と比較しつつ、戦後に翻弄されながら発展していった追浜の歴史を振り返ります。



写真には以下のような説明が添えてあります。

『駅頭風景 昭和21年。終戦間もないころの追浜駅頭の風景です。駅舎や人々の様子に、当時の思い出が甦ります。左手に「市民祭」の看板がありますが、第一回市民祭開催のもので。』



この駅前広場に横須賀市と国土交通省関東地方整備局が主体となり、バス停を集約し、公共施設や商業施設を兼ね備えた地域密着型バスタが概ね10年以内の竣工を目指し計画が進んでいます。追浜えき・まち・みちデザインセンターには新しい追浜の街をイメージした模型が展示されています。



横須賀の歩んだ昭和 100 入場無料

横須賀市自然・人文博物館 2025.7.19(土) ▶ 12.28(日)



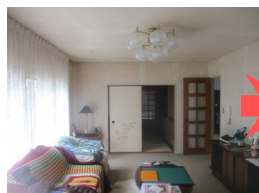
皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
創業 1960.1.20. 創刊 2002.4.1. Next100

平成29年のリフォーム工事以来、住宅設備のメンテナンスをはじめ外装工事などを担当させていただいているお住まいを紹介させていただきます。

今回は1階の応接間の模様替えです。LED仕様の照明器具に交換し、少し汚れが目立ってきた壁と天井のクロスを貼り替えたいというご要望です。応接間の象徴だったシャンデリアは光の色が調整可能なスッキリした照明になりました。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

「LEDの問題も解決しました。いままであまり使っていなかったダウンライトでしたが、部屋の雰囲気を変えることができる機能が付いたので有効に使おうと思います」という感想をいただきました。



※蛍光灯には微量ながら水銀が含まれるため、蛍光灯の製造と輸出入が2027年末までに禁止になることが決定しました。蛍光灯器具からLED照明器具へのお取り替えをお勧めします。照明器具によってはランプの交換で済む場合がありますが、注意が必要です。

「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ビフォー、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。

ローカルニュース
地域情報

三浦半島周辺で開催されるイベントや地域情報等を紹介します。

◆ヴェルニー公園

この秋ヴェルニー公園で開催されるイベントを紹介させていただきます。

◇PARKOUR TOP OF JAPAN YOKOSUKA 2025

10月25日(土) 10:45~17:00

「走る・跳ぶ・登る」といった動作を軽やかにそしてスピーディーに美しく見せるパフォーマンスです。

◇横須賀ワインフェスティバル

10月31日(金)~11月3日(月・祝)

世界10カ国約70銘柄のワインを飲み比べながら絶品グルメを堪能できます。



◇横須賀ジャズロックフェスティバル

11月1日(土)~11月3日(月・祝)

ヴェルニー公園をはじめ、横須賀の街がロックとジャズに包まれる3日間です。

Yokosuka
Wine
Festival 2025



GRACIAS
OBRIGADO
THANKS
MERCI BEAUCOUP
NISSAN

これから新しい追浜を創ろう

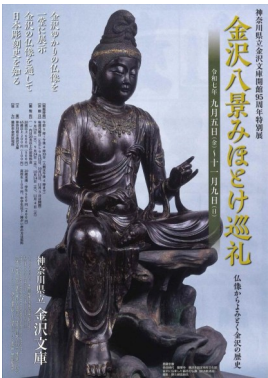
(非公認キャンペーン実施中)



神奈川県立金沢文庫

神奈川県立金沢文庫は、鎌倉時代の中頃、北条氏の一族（金沢北条氏）の北条実時が武蔵国久良岐郡六浦荘金沢の邸宅内に造った文庫に起源をもつ歴史博物館です。中世の歴史や文化を伝える貴重な文化財が保管されています。蔵書の内容は政治、文学、歴史など多岐にわたるもので、収集の方針はその後も顕時、貞顕、貞将の三代にわたって受け継がれました。

元弘3年（1333年）、金沢北条氏は鎌倉幕府滅亡と運命をともにしましたが、以後、文庫の蔵書は隣接する菩提寺の称名寺によって管理され、近代に至りました。明治時代には、初代内閣総理大臣・伊藤博文の支援により、称名寺の塔頭・大宝院の境内に「金沢文庫」が建てられました。しかし、その建物は、大正12年（1923年）の関東大震災により倒壊してしまいました。その後、「金沢文庫」は実業家・大橋新太郎の助力によって、昭和5年（1930年）に称名寺境内に展示室と収蔵庫を備えた建物（旧館）が建てられ、神奈川県の施設となりました。平成2年（1990年）には、称名寺境内から現在の敷地に移されました。



現在、開館95周年特別展「金沢八景みほとけ巡礼-仏像からよみとく金沢の歴史-」が11月9日(日)まで開催されています。横浜市金沢区周辺は、かつて「武蔵国六浦荘金沢」と呼ばれ、中世には都市・鎌倉の外港として栄えました。そして、近世には、名勝金沢八景と称され、風光明媚な景勝地として多くの人々が訪れました。金沢の内海周辺に建立された由緒ある寺院と、そこに安置された仏像を通して、中世金沢に展開した寺院の実態や、その後の巡礼寺院としての金沢八景が紹介されています。

また、東京大学教授の本郷和人氏による金沢を知る講演会「都市・鎌倉の盛衰-逃げ上手の時行の足跡をたどって-」が12月6日(土)に開催されます。（定員70名・抽選）
（参考資料「神奈川県立金沢文庫のホームページ」）



作り方を作る
佐藤雅彦
6/28~11/3

横浜美術館

ピタゴラスイッチ

ドンタコス スコーン
だんご3兄弟
ポリンキー



よこすか近代遺産ミュージアム
ティボディエ邸

9:00~17:00 年中無休
詳細につきましては施設にお問い合わせ
ください。 ☎046(822)9478



よこすか文学館

【119】

横須賀が登場する文芸作品（マンガも含む）や横須賀に縁のある文学者を紹介します。

げんき彦一彦『猿島の七日間』（ベネッセコーポレーション）

猿島を舞台とした小説です。東京に住む小学5年生の西岡彦樹（げんき）は、猿島に一人で釣りに行く計画を立てますが、親の反対を恐れ、多摩川で釣りをすると偽って、日曜の早朝に出かけます。猿島では順調に魚を釣り上げますが、岩場で寝てしまったために、帰路の船に乗り遅れてしまいます。次に船が来るのは1週間後の日曜。彦樹は持参した釣り道具やナイフ、拾ったライター、そして釣りやキャンプの折に父親に教わった知識を頼りに1週間、たった一人で生きていきます。携帯電話もなく、猿島が観光地化されていない時代の冒険物語です。



彦一彦は1947年成田市生まれ。青山学院大学英文科卒業。独学で絵画を学び、銅版画集『ポルトガルの春』を刊行しています。児童文学としては本書以外に、『たいようはいいいな』、『とうさんとさめ』などがあります。
（洗足学園中学高等学校教諭 中島正二）

お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2025」A-9歩ZONE版（永久保存版）を（Blog「Oppamap2025」より）ダウンロードすることができますので、是非ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索